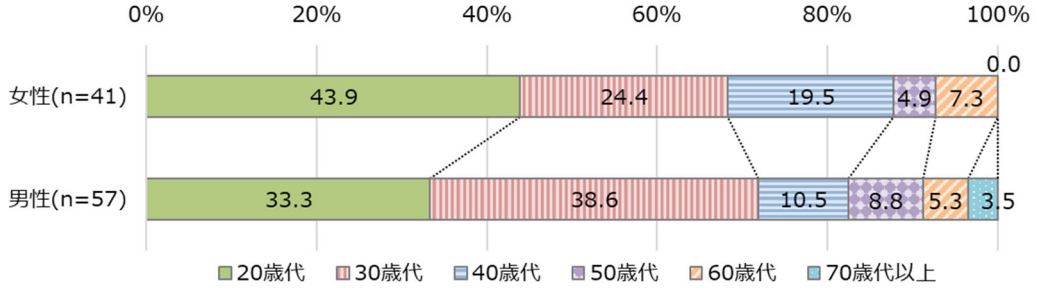
4.2　アンケート調査の結果（立候補をしたが当選しなかった人）

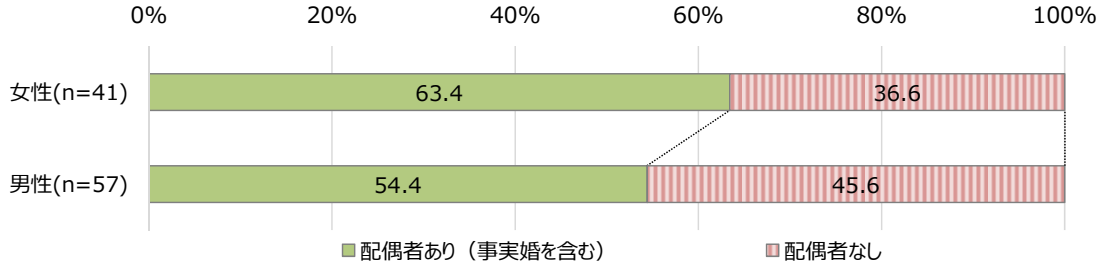
Ⅰ．回答者自身について

図 4-2-1 直近の立候補した時点の年代（SA）：基本集計結果



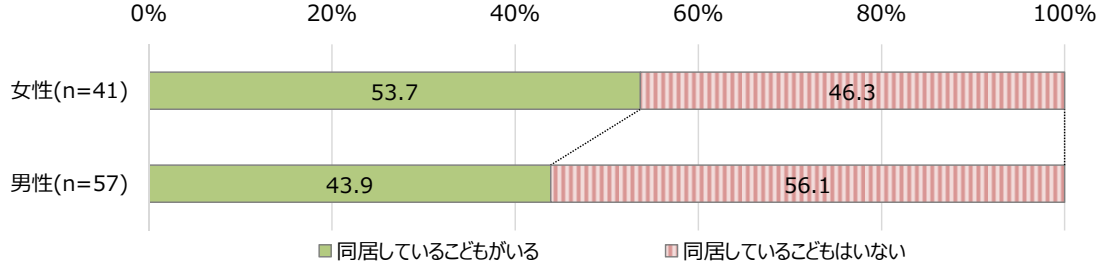
立候補をしたが当選しなかった人では、女性 41 名、男性 57 名からの回答を得た。直近の立候補した時点の年代では、女性では「20 歳代」（43.9%）が最も多く、次いで「30 歳代」（24.4%）、「40 歳代」（19.5%）であった。男性では「30 歳代」（38.6%）が最も多く、次いで「20 歳代」（33.3%）、「40 歳代」（10.5%）であった。

図 4-2-2 直近の立候補した時点の婚姻状況（SA）：基本集計結果



男女ともに「配偶者あり（事実婚を含む）」（女性 63.4%、男性 54.4%）と回答した割合が多かった。

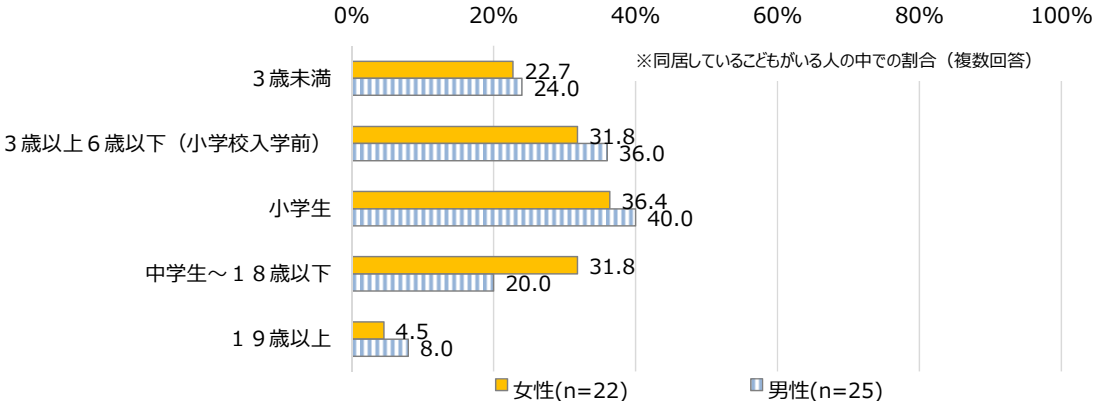
図 4-2-3 直近の立候補した時点での同居しているこどもの有無（SA）：基本集計結果



女性では「同居しているこどもがいる」（53.7%）と回答した割合が高く、男性よりも女

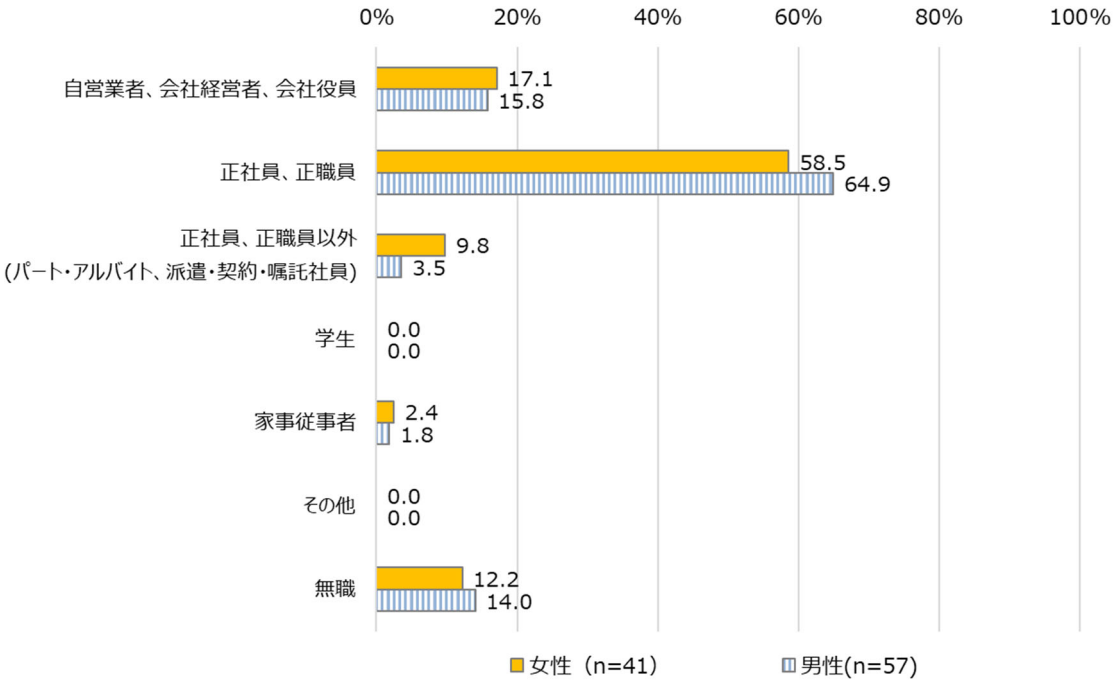
性の方が 9.8 ポイント高かった。

図 4-2-4 直近の立候補した時点での同居しているこどもの年齢（MA）：基本集計結果



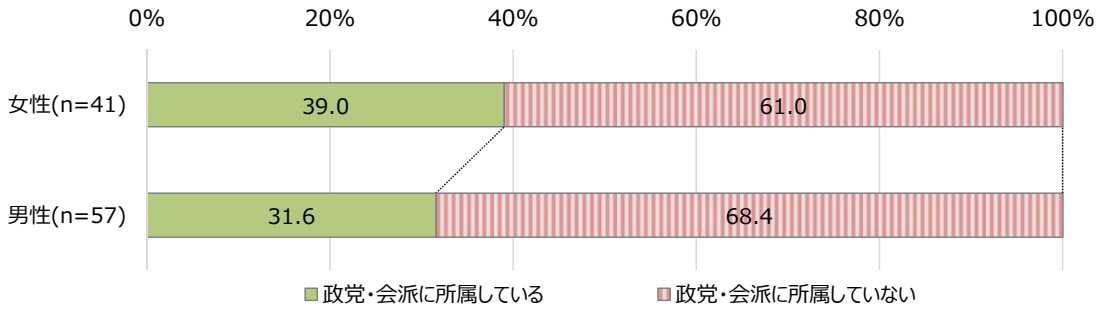
男女ともに「小学生」（女性 36.4%、男性 40.0%）のこどもと同居していると回答した割合が最も高かったが、「3 歳以上 6 歳以下（小学校入学前）」（女性 31.8%、男性 36.0%）のこどもと同居していると回答した割合も僅差であった。なお、同居しているこどもが複数いる場合には、全てのこどもについて回答を得ている。

図 4-2-5 直近の立候補した時点の就業状況（SA）：基本集計結果



男女ともに「正社員、正職員」（女性 58.5%、男性 64.9%）と回答した割合が最も高く、次いで「自営業者、会社経営者、会社役員」（女性 17.1%、男性 15.8%）であった。

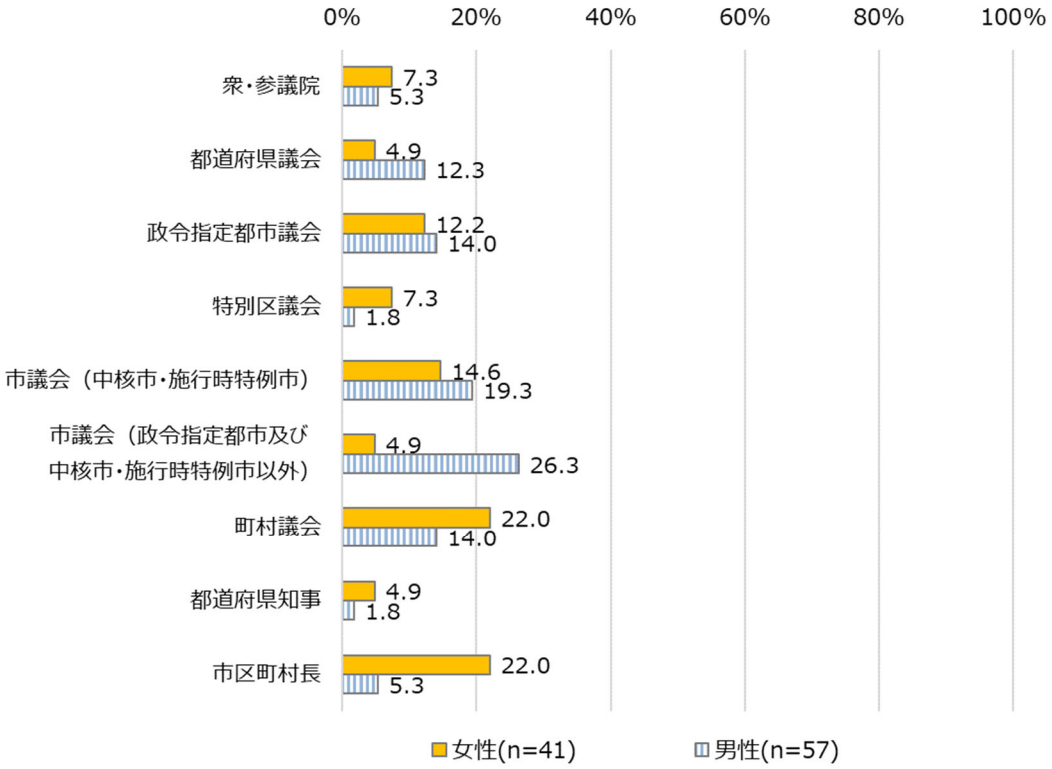
図 4-2-6 直近の立候補した時点の政党又は会派への所属（SA）：基本集計結果



男女ともに「政党・会派に所属していない」（女性 61.0%、男性 68.4%）と回答した割合が高かった。

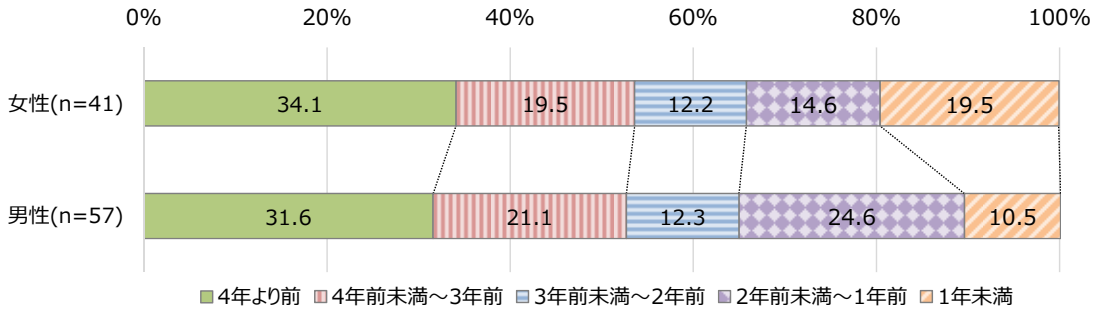
Ⅱ．立候補時の状況、障壁等について

図 4-2-7 直近で立候補した選挙（SA）：基本集計結果



女性では「町村議会」（22.0%）及び「市区町村長」（22.0%）と回答した割合が最も高かった。一方、男性は「市議会（政令指定都市及び中核市・施行時特例市以外）」（26.3%）と回答した割合が最も高く、次いで「市議会（中核市・施行時特例市）」（19.3%）であった。

図 4-2-8 初めて立候補を決断した時期（SA）：基本集計結果



男女ともに「4 年より前」（女性 34.1%、男性 31.6%）と回答した割合が最も高く、次いで女性は「4 年前未満～ 3 年前」（19.5%）及び「 1 年未満」（19.5%）であった。

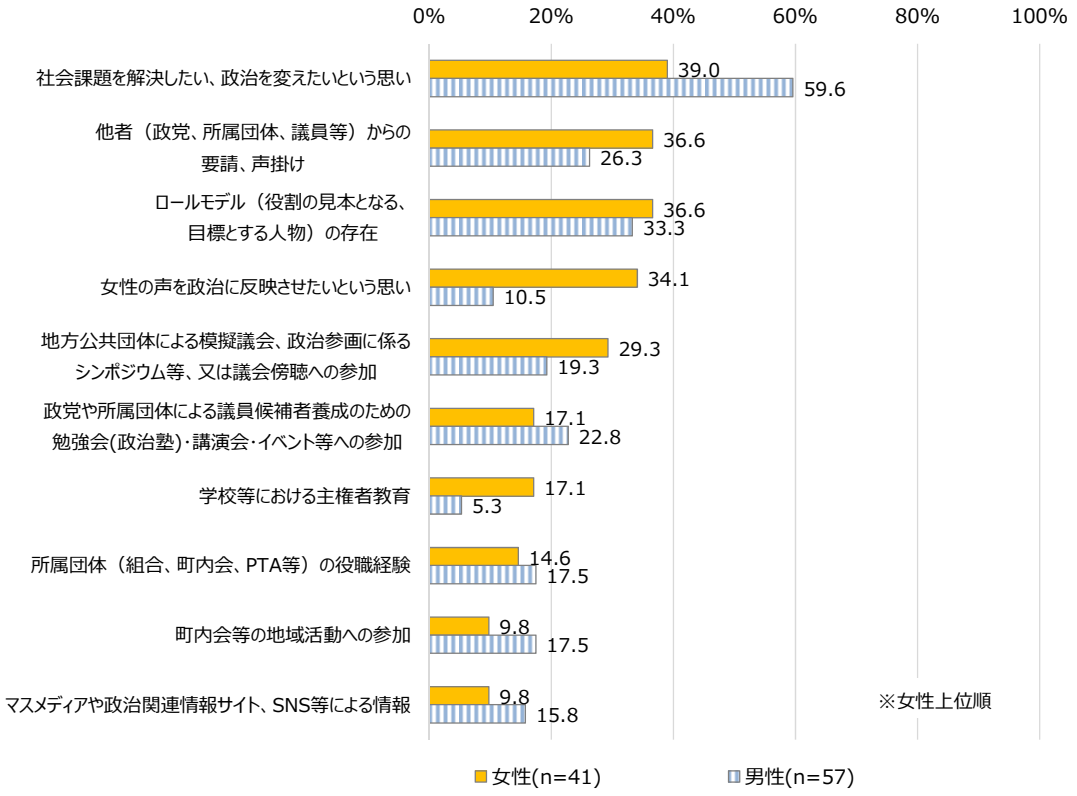
表 4-2-9 初めて立候補を決断した時期（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=41)	男性 (n=57)	性差ポイント (女性ー男性)
1	**２年前未満～１年前**	**14.6 (4位)**	**24.6 (2位)**	**▲10.0**
2	1年未満	19.5 (2位)	10.5 (5位)	+9.0
3	4年より前	34.1 (1位)	31.6 (1位)	+2.5
4	４年前未満～３年前	19.5 (2位)	21.1 (3位)	▲1.6
5	３年前未満～２年前	12.2 (5位)	12.3 (4位)	▲0.1

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「2 年前未満～1 年前」であり、男性の方が 10.0 ポイント高かった。

図 4-2-10 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになったもの（MA）：基本集計結果



男女ともに「社会課題を解決したい、政治を変えたいという思い」（女性 39.0%、男性 59.6%）と回答した割合が最も高く、次いで女性は「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」（36.6%）及び「ロールモデル（役割の見本となる、目標とする人物）の存在」（36.6%）であった。

表 4-2-11 初めて立候補を決断したきっかけ又は後押しになったもの（MA）：性差ポイント順位表

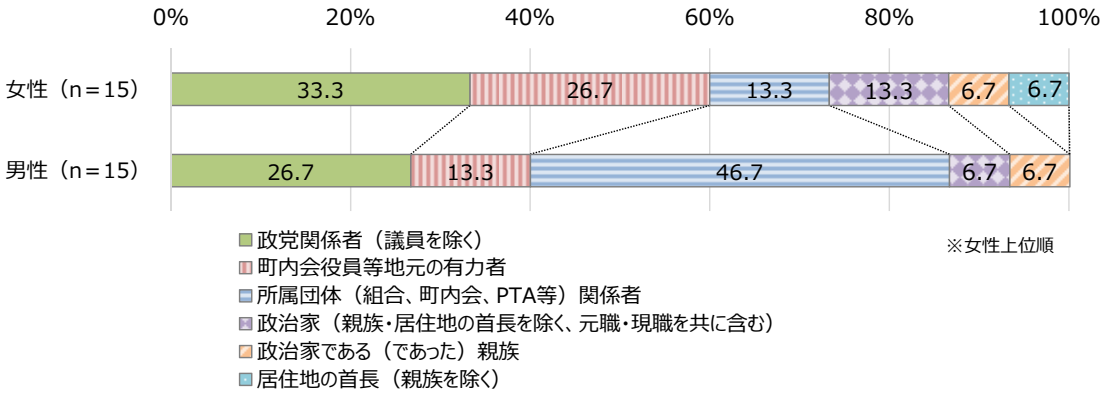
順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=41)	男性 (n=57)	性差ポイント (女性－男性)
1	**女性の声を政治に反映させたいという思い**	**34.1 (4位)**	**10.5 (9位)**	**+23.6**
2	**社会課題を解決したい、政治を変えたいという思い**	**39.0 (1位)**	**59.6 (1位)**	**▲20.6**
3	**学校等における主権者教育**	**17.1 (6位)**	**5.3 (10位)**	**+11.8**
4	**他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け**	**36.6 (2位)**	**26.3 (3位)**	**+10.3**
5	**地方公共団体による模擬議会、政治参画に係るシンポジウム等、又は議会傍聴への参加**	**29.3 (5位)**	**19.3 (5位)**	**+10.0**
6	町内会等の地域活動への参加	9.8 (9位)	17.5 (6位)	▲7.7
7	マスメディアや政治関連情報サイト、SNS等による情報	9.8 (9位)	15.8 (8位)	▲6.0
8	政党や所属団体による議員候補者養成のための勉強会(政治塾)・講演会・イベント等への参加	17.1 (6位)	22.8 (4位)	▲5.7
9	ロールモデル（役割の見本となる、目標とする人物）の存在	36.6 (2位)	33.3 (2位)	+3.3
10	所属団体（組合、町内会、PTA等）の役職経験	14.6 (8位)	17.5 (6位)	▲2.9

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差で最も大きかったものは「女性の声を政治に反映させたいという思い」であり、女性の方が 23.6 ポイント高かった。次いで「社会課題を解決したい、政治を変えたいという思い」であり、こちらは男性の方が 20.6 ポイント高かった。

その他に、男女間で 10 ポイント以上の差があったのは「学校等における主権者教育」、「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」、「地方公共団体による模擬議会、政治参画に係るシンポジウム等、又は議会傍聴への参加」であり、いずれも女性の方が、11.8 ポイント、10.3 ポイント、10.0 ポイント高かった。

図 4-2-12 誰からの要請を受けたか（SA）：基本集計結果



立候補したきっかけが「他者（政党、所属団体、議員等）からの要請、声掛け」と回答した人に、誰からの要請・声掛けであったかを尋ねたところ、女性では「政党関係者（議員を除く）」(33.3%) と回答した割合が最も高かった。男性では「所属団体（組合、町内会、PTA 等）関係者」(46.7%) と回答した割合が最も高かった。ただし、サンプル僅少のため、結果の読み取りに留意が必要である。

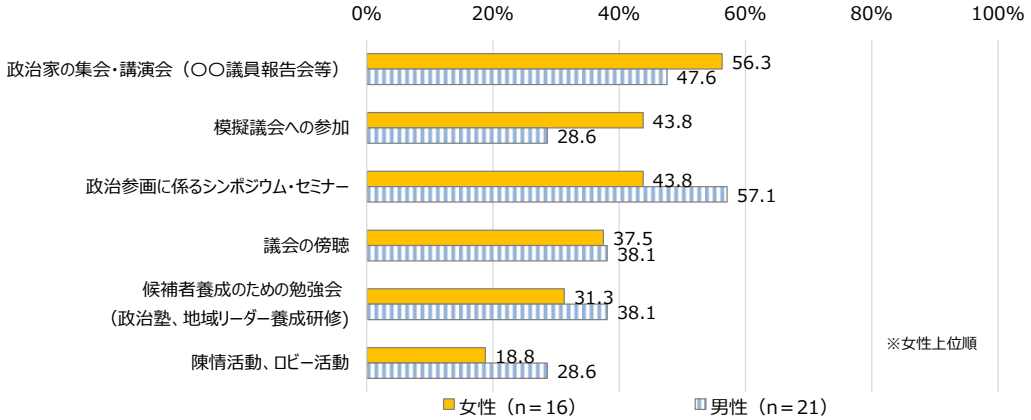
表 4-2-13 誰からの要請を受けたか（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=15)	男性 (n=15)	性差ポイント (女性－男性)
1	**所属団体（組合、町内会、PTA等）関係者**	**13.3 (3位)**	**46.7 (1位)**	**▲33.4**
2	**町内会役員等地元の有力者**	**26.7 (2位)**	**13.3 (3位)**	**+13.4**
3	居住地の首長（親族を除く）	6.7 (5位)	0.0 (6位)	+6.7
4	政党関係者（議員を除く）	33.3 (1位)	26.7 (2位)	+6.6
4	政治家（親族・居住地の首長を除く、元職・現職を共に含む）	13.3 (3位)	6.7 (4位)	+6.6
6	政治家である（であった）親族	6.7 (5位)	6.7 (4位)	0.0

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が大きかったものは「所属団体（組合、町内会、PTA 等）関係者」であり、男性のほうが 33.4 ポイント高かった。次に「町内会役員等地元の有力者」が続き、女性のほうが 13.4 ポイント高いという結果であった。ただし、サンプル僅少のため、結果の読み取りに留意が必要である。

図 4-2-14 立候補を検討したきっかけ又は後押しになった勉強会やイベント等（MA）：基本集計結果



立候補したきっかけが「政党や所属団体による議員候補者養成のための勉強会(政治塾)・講演会・イベント等への参加」又は「地方公共団体による模擬議会、政治参画に係るシンポジウム等、又は議会傍聴への参加」と回答した人に、具体的な内容を尋ねたところ、女性では「政治家の集会・講演会(〇〇議員報告会等)」（56.3%）と回答した割合が最も高く、男性では「政治参画に係るシンポジウム・セミナー」（57.1%）であった。ただし、サンプル僅少のため、結果の読み取りに留意が必要である。

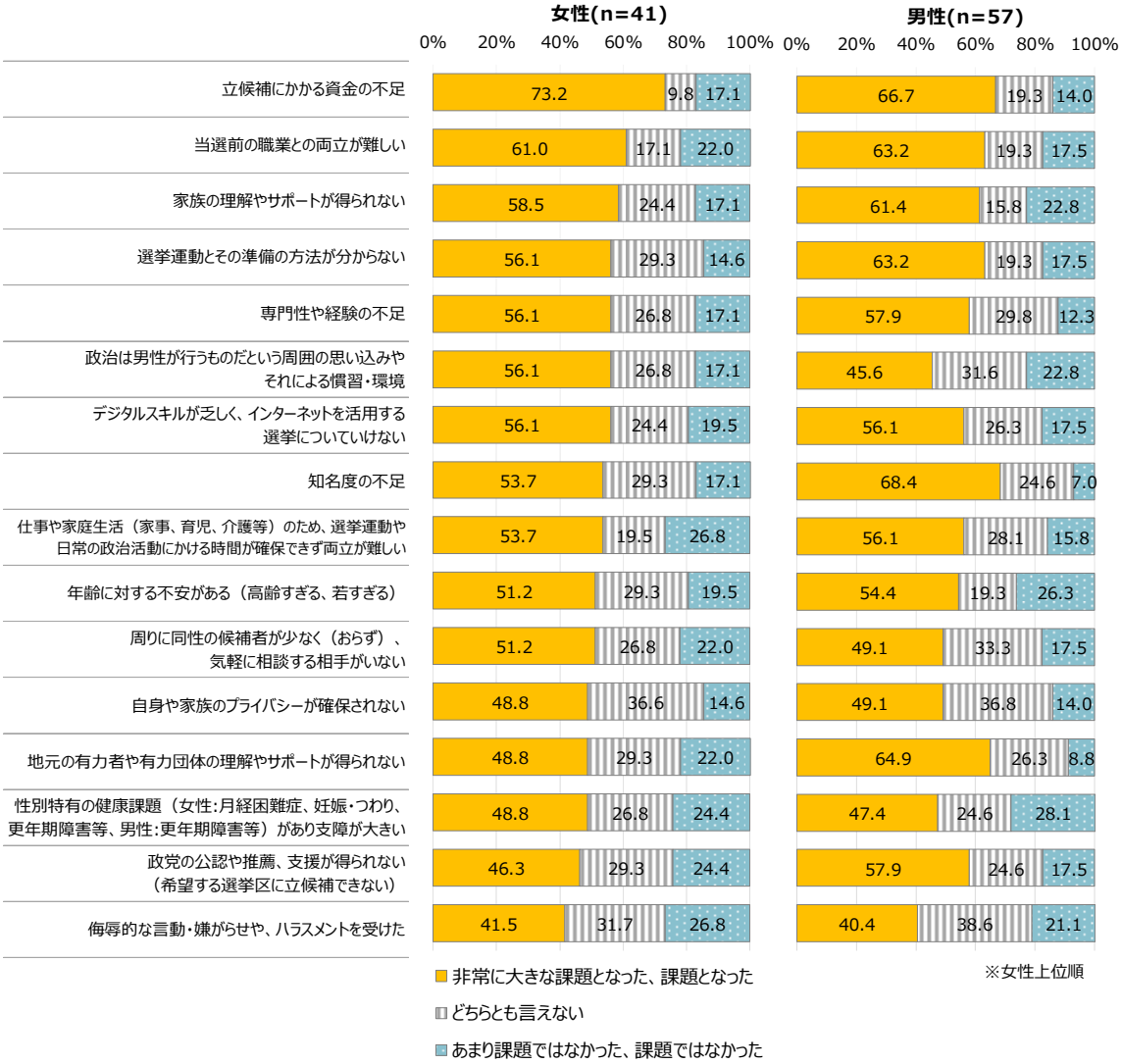
表 4-2-15 立候補を検討したきっかけ又は後押しになった勉強会やイベント等（MA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=16)	男性 (n=21)	性差ポイント (女性−男性)
1	**模擬議会への参加**	**43.8 (2位)**	**28.6 (5位)**	**+15.2**
2	**政治参画に係るシンポジウム・セミナー**	**43.8 (2位)**	**57.1 (1位)**	**▲13.3**
3	陳情活動、ロビー活動	18.8 (6位)	28.6 (5位)	▲9.8
4	政治家の集会・講演会（〇〇議員報告会等）	56.3 (1位)	47.6 (2位)	+8.7
5	候補者養成のための勉強会（政治塾、地域リーダー養成研修）	31.3 (5位)	38.1 (3位)	▲6.8
6	議会の傍聴	37.5 (4位)	38.1 (3位)	▲0.6

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったのは「模擬議会への参加」であり、女性の方が 15.2 ポイント高かった。次に「政治参画に係るシンポジウム・セミナー」が続き、男性の方が 13.3 ポイント高かった。ただし、サンプル僅少のため、結果の読み取りに留意が必要である。

図 4-2-16 立候補を決断してから投開票が行われるまでの課題とその程度（SA）：基本集計結果



女性は「立候補にかかる資金の不足」（73.2%）と回答した割合が最も高く、次いで「当選前の職業との両立が難しい」（61.0%）、「家族の理解やサポートが得られない」（58.5%）、「選挙運動とその準備の方法が分からない」（56.1%）、「専門性や経験の不足」（56.1%）、「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」（56.1%）、「デジタルスキルが乏しく、インターネットを活用する選挙についていけない」（56.1%）と回答する割合が高かった。

表 4-2-17 立候補を決断してから投開票が行われるまでの課題とその程度（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=41)	男性 (n=57)	性差ポイント (女性－男性)
1	**地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない**	**48.8 (12位)**	**64.9 (3位)**	**▲16.1**
2	**知名度の不足**	**53.7 (8位)**	**68.4 (1位)**	**▲14.7**
3	**政党の公認や推薦、支援が得られない（希望する選挙区に立候補できない）**	**46.3 (15位)**	**57.9 (7位)**	**▲11.6**
4	**政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境**	**56.1 (4位)**	**45.6 (15位)**	**+10.5**
5	選挙運動とその準備の方法が分からない	56.1 (4位)	63.2 (4位)	▲7.1
6	立候補にかかる資金の不足	73.2 (1位)	66.7 (2位)	+6.5
7	年齢に対する不安がある（高齢すぎる、若すぎる）	51.2 (10位)	54.4 (11位)	▲3.2
8	家族の理解やサポートが得られない	58.5 (3位)	61.4 (6位)	▲2.9
9	仕事や家庭生活(家事、育児、介護等）のため、選挙運動や日常の政治活動にかける時間が確保できず両立が難しい	53.7 (8位)	56.1 (9位)	▲2.4
10	当選前の職業との両立が難しい	61.0 (2位)	63.2 (4位)	▲2.2
11	周りに同性の候補者が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない	51.2 (10位)	49.1 (12位)	+2.1
12	専門性や経験の不足	56.1 (4位)	57.9 (7位)	▲1.8
13	性別特有の健康課題(女性：月経困難症、妊娠・つわり、更年期障害等、男性：更年期障害等）があり支障が大きい	48.8 (12位)	47.4 (14位)	+1.4
14	侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた	41.5 (16位)	40.4 (16位)	+1.1
15	自身や家族のプライバシーが確保されない	48.8 (12位)	49.1 (12位)	▲0.3
16	デジタルスキルが乏しく、インターネットを活用する選挙についていけない	56.1 (4位)	56.1 (9位)	0.0

※男女の回答割合は「非常に大きな課題となった」及び「課題となった」の合計
※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったのは、「地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない」で、男性の方が 16.1 ポイント高く、次いで「知名度の不足」、「政党の公認や推薦、支援が得られない（希望する選挙区に立候補できない）」であり、それぞれ男性の方が 14.7 ポイント、11.6 ポイント高かった。また「政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境」では、女性の方が 10.5 ポイント高いという結果となった。

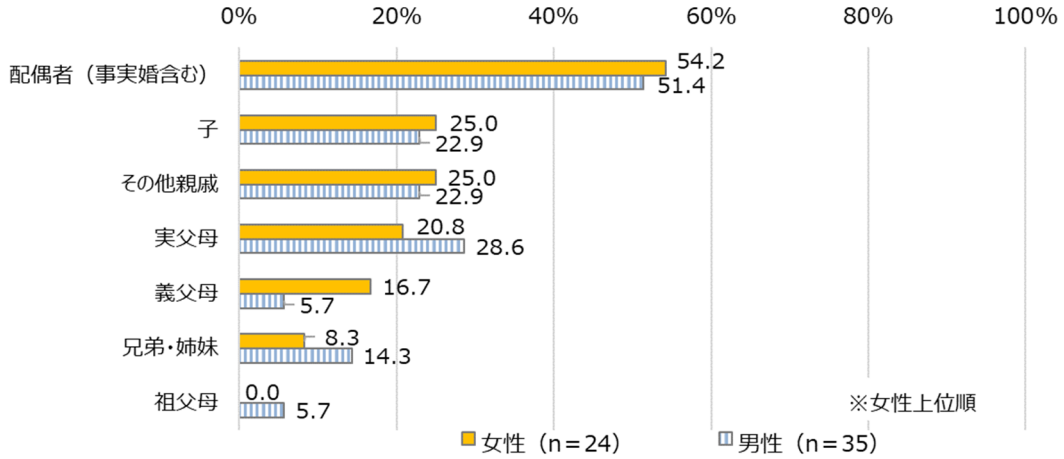
立候補を決断してから投開票までの間に不足していた専門性や経験（FA）

「専門性や経験の不足」が「非常に大きな課題となった」、「課題となった」と回答した人に対し、立候補を決断してから投開票までの間に必要な専門性・経験について、何が最も不足していたと考えるか自由記述で回答を求めたところ、34 件の回答があった。

具体的な回答をみると「資金対策、資金を集めるノウハウ（男性 30 代、女性 30 代）」、「選挙戦術が不足している（男性 50 代）」等の選挙方法・資金・ノウハウに関する回答が複数あった。

また「政治収支報告書の書き方（女性 20 代）」等の行財政に関する記述や、「政策議論（女性 50 代）」、「マニフェスト（女性 60 代）」、「政党関係者、協力者とのコネクション（男性 30 代）」、「知名度、投票までの知名度の確立（男性 20 代、男性 30 代、男性 60 代）」等の回答がみられた。

図 4-2-18 家族の誰からの理解やサポートが得られなかったか（MA）：基本集計結果



「家族の理解やサポートが得られない」と回答した人に対し、家族の誰からの理解やサポートが得られなかったかを尋ねたところ、男女ともに「配偶者（事実婚含む）」（女性 54.2%、男性 51.4%）と回答した割合が最も高かった。ただし、サンプル僅少のため、結果の読み取りに留意が必要である。

表 4-2-19 家族の誰からの理解やサポートが得られなかったか（MA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=24)	男性 (n=35)	性差ポイント (女性－男性)
1	**義父母**	**16.7 (5位)**	**5.7 (6位)**	**+11.0**
2	実父母	20.8 (4位)	28.6 (2位)	▲7.8
3	兄弟・姉妹	8.3 (6位)	14.3 (5位)	▲6.0
4	祖父母	0.0 (7位)	5.7 (6位)	▲5.7
5	配偶者（事実婚含む）	54.2 (1位)	51.4 (1位)	+2.8
6	子	25.0 (2位)	22.9 (3位)	+2.1
6	その他親戚	25.0 (2位)	22.9 (3位)	+2.1

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったのは「義父母」であり、女性の方が 11.0 ポイント高かった。ただし、サンプル僅少のため、結果の読み取りに留意が必要である。

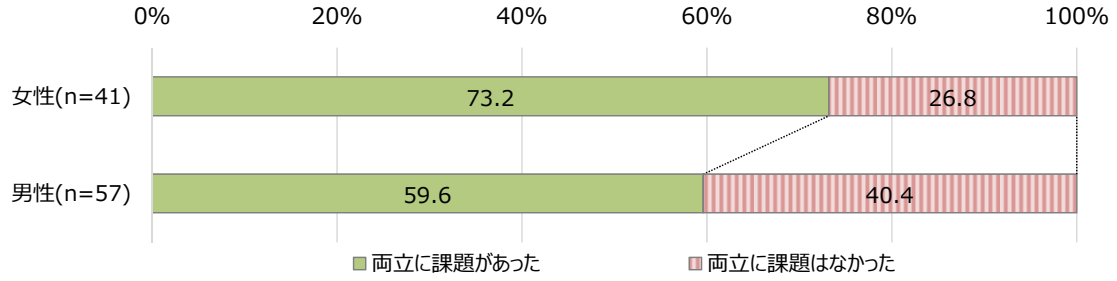
直近の選挙で、立候補を決断してから投開票までの間に抱えていた不安や悩み（FA）

直近の選挙で、立候補を決断してから投開票までの間に抱えていた不安や悩みに関して自由記述で尋ねたところ、35 件の記述があった。

具体的な回答をみると「供託金の準備不足、資金対策（女性 20 代、男性 30 代）」、「費用がいくらかかるか不安。様々な方が関わって助言してくるので、どれを信じて付いていけばいいか分からなくなる（男性 20 代）」、「資金面と選挙法に違反していないかどうかの判断（男性 30 代）」、「知名度がないと限られる範囲でしかできないことが分かった（男性 20 代）」といった立候補にかかる資金の不足や選挙運動とその準備方法等について不安や悩みを抱えていたという回答が複数あった。

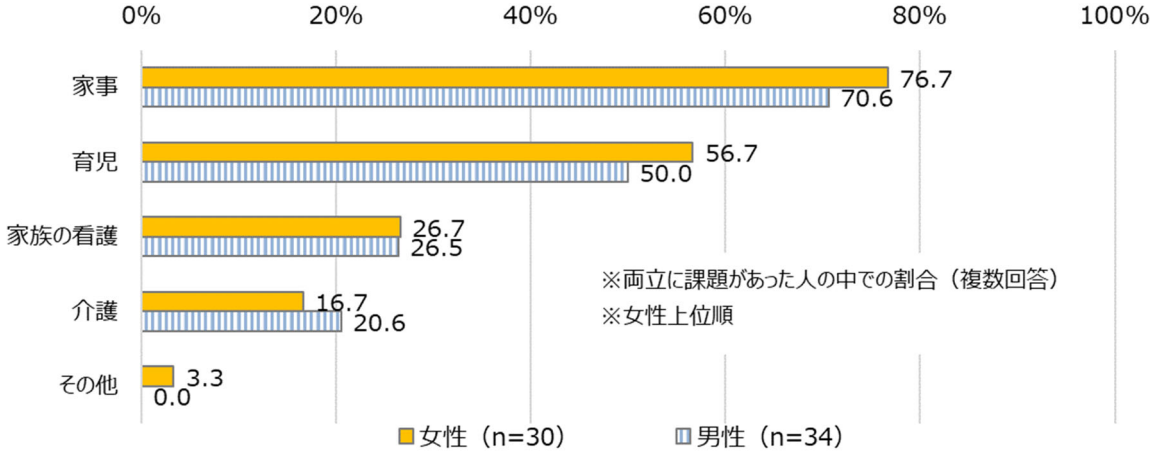
また「業務の引き継ぎと選挙後の業務について（男性 40 代）」、「会社を辞めさせられた（男性 60 代）」、「会社の就業規則から離職を決断。母親の介護もあり、運動期間（時間）に制限があり、活動出来なかった（男性 40 代）」等の仕事や家庭生活との両立に関するもの、「自分の訴えが、有権者に確実に届くかどうか、どんな反応があるのか（女性 40 代）」、「本当に投票してくれるかどうか（男性 30 代）」、「投票数の不安（男性 30 代）」、「落選時の生活（男性 30 代）」等、様々な不安に関する回答がみられた。

図 4-2-20 選挙運動や日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題（SA）：基本集計結果（両立課題の有無）



選挙運動や日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上で課題があった人の割合は、女性が 73.2%、男性が 59.6%であり、女性の方が 13.6 ポイント高かった。

図 4-2-21 選挙運動や日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題（MA）：基本集計結果（両立に課題があった人における課題の内容）



両立に課題があった人における課題の内容では、男女ともに「家事」（女性 76.7%、男性 70.6%）と回答した割合が最も高かった。なお、「家事」と「育児」、「家事」と「介護」との複数回答も多く、両立に課題があったと回答した女性の課題数の平均は 1.8 個であった。

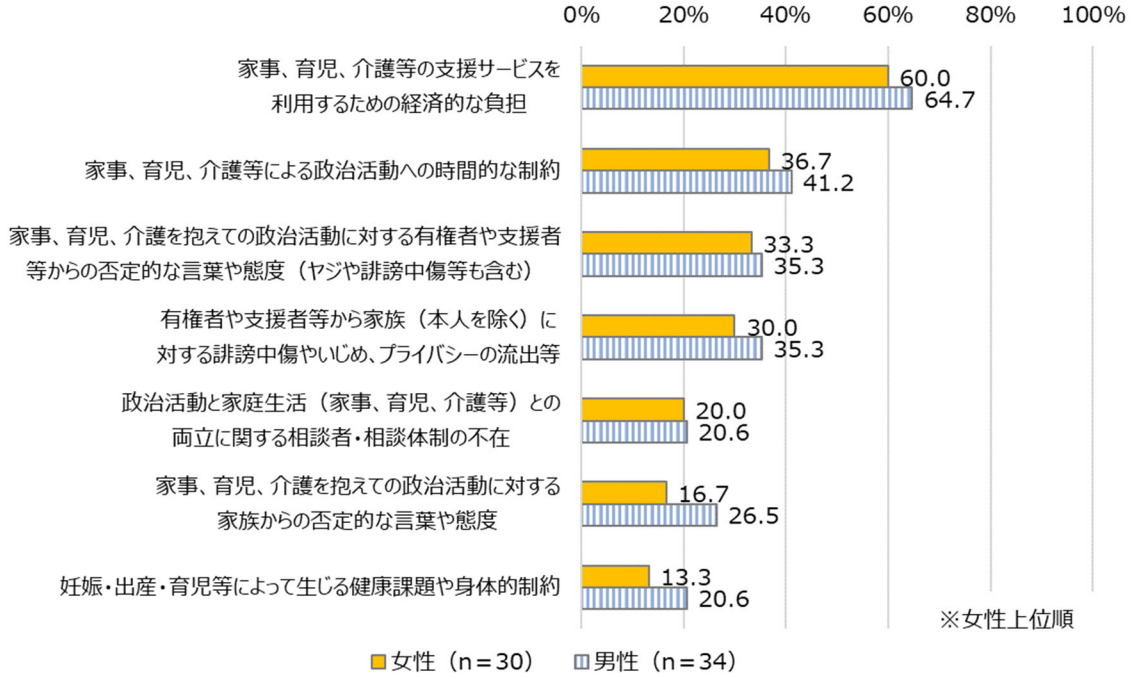
表 4-2-22 選挙運動や日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上での課題（MA）：性差ポイント順位表（両立に課題があった人における課題の内容）

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=30)	男性 (n=34)	性差ポイント (女性－男性)
1	育児	56.7 (2位)	50.0 (2位)	＋6.7
2	家事	76.7 (1位)	70.6 (1位)	＋6.1
3	介護	16.7 (4位)	20.6 (4位)	▲3.9
4	家族の看護	26.7 (3位)	26.5 (3位)	＋0.2

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「育児」で、女性の方が 6.7 ポイント高かった。次いで「家事」であり、女性の方が 6.1 ポイント高かった。

図 4-2-23 両立における課題や不安、悩み（MA）：基本集計結果



選挙運動や日常的な政治活動と家庭生活との両立を行う上で、「両立に課題があった」と回答した人に、両立における課題や不安、悩みについて尋ねたところ、男女ともに「家事、育児、介護等の支援サービスを利用するための経済的な負担」（女性 60.0%、男性 64.7%）と回答した割合が最も高かった。

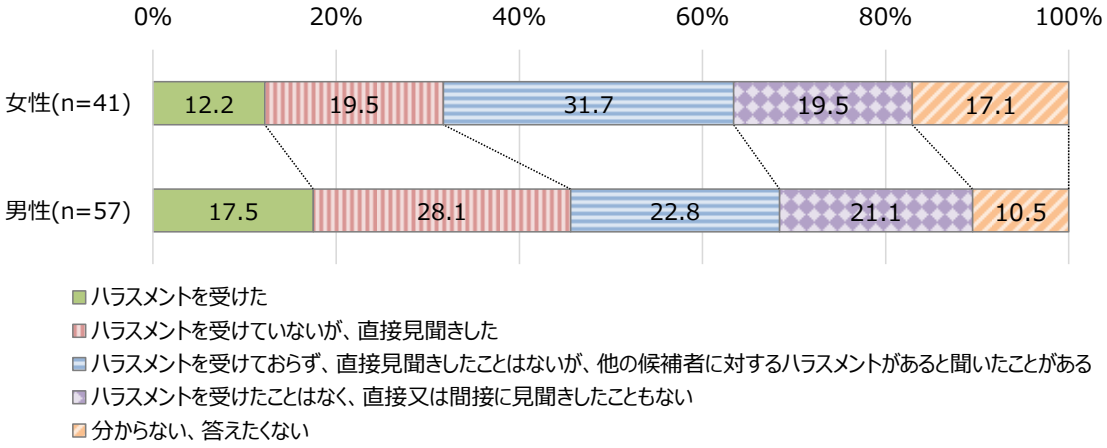
表 4-2-24 両立における課題や不安、悩み（MA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=30)	男性 (n=34)	性差ポイント (女性－男性)
1	家事、育児、介護を抱えての政治活動に対する家族からの否定的な言葉や態度	16.7 (6位)	26.5 (5位)	▲9.8
2	妊娠・出産・育児等によって生じる健康課題や身体的制約	13.3 (7位)	20.6 (6位)	▲7.3
3	有権者や支援者等から家族(本人を除く)に対する誹謗中傷やいじめ、プライバシーの流出等	30.0 (4位)	35.3 (3位)	▲5.3
4	家事、育児、介護等の支援サービスを利用するための経済的な負担	60.0 (1位)	64.7 (1位)	▲4.7
5	家事、育児、介護等による政治活動への時間的な制約	36.7 (2位)	41.2 (2位)	▲4.5
6	家事、育児、介護を抱えての政治活動に対する有権者や支援者等からの否定的な言葉や態度（ヤジや誹謗中傷等も含む）	33.3 (3位)	35.3 (3位)	▲2.0
7	政治活動と家庭生活(家事、育児、介護等)との両立に関する相談者・相談体制の不在	20.0 (5位)	20.6 (6位)	▲0.6

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「家事、育児、介護を抱えての政治活動に対する家族からの否定的な言葉や態度」であり、男性の方が 9.8 ポイント高かった。全項目において、男性の方が課題と感じている傾向がみられた。

図 4-2-25 選挙運動や日常的な政治活動のハラスメント（SA）：基本集計結果



選挙運動や日常的な政治活動において、自身や家族、支援者等が有権者や支援者、他の候補者等からハラスメントを受けたか尋ねたところ、女性では「ハラスメントを受けておらず、直接見聞きしたことはないが、他の候補者に対するハラスメントがあると聞いたことがある」（31.7%）と回答した割合が最も高く、男性では「ハラスメントを受けていないが、直接見聞きした」（28.1%）と回答した割合が最も高かった。

表 4-2-26 選挙運動や日常的な政治活動のハラスメント（SA）：性差ポイント順位表

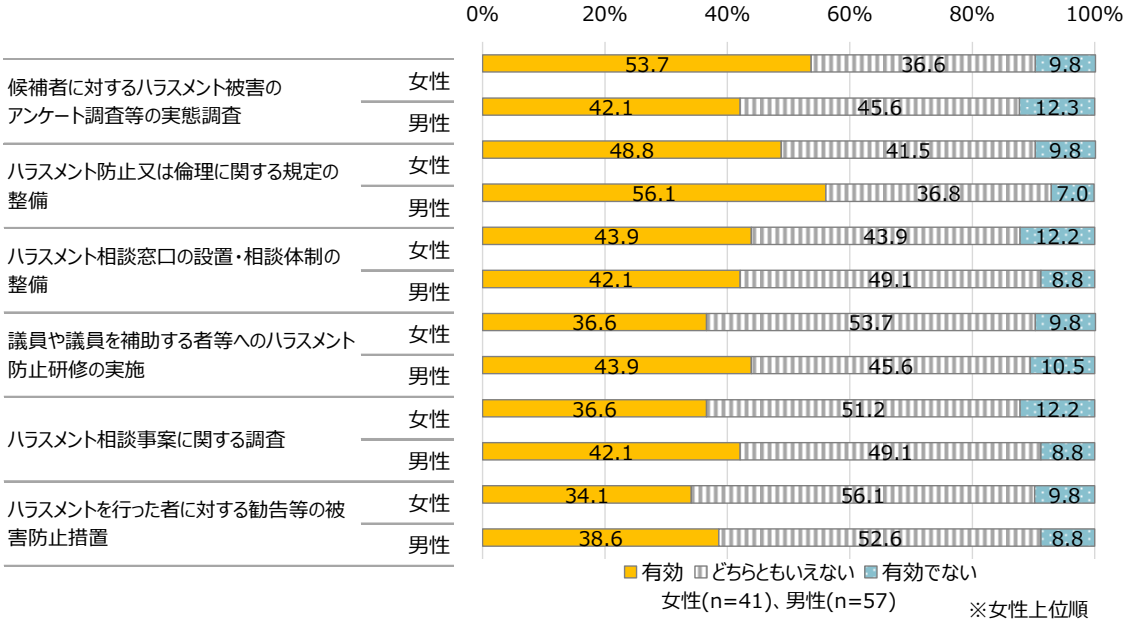
順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=41)	男性 (n=57)	性差ポイント (女性－男性)
1	ハラスメントを受けておらず、直接見聞きしたことはないが、他の候補者に対するハラスメントがあると聞いたことがある	31.7 (1位)	22.8 (2位)	+8.9
2	ハラスメントを受けていないが、直接見聞きした	19.5 (2位)	28.1 (1位)	▲8.6
3	分からない、答えたくない	17.1 (4位)	10.5 (5位)	+6.6
4	ハラスメントを受けた	12.2 (5位)	17.5 (4位)	▲5.3
5	ハラスメントを受けたことはなく、直接又は間接に見聞きしたこともない	19.5 (2位)	21.1 (3位)	▲1.6

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは、「ハラスメントを受けておらず、直接見聞きしたことはないが、他の候補者に対するハラスメントがあると聞いたことがある」であり、女性の方が 8.9 ポイント高かった。次いで「ハラスメントを受けていないが、直接見聞きした」では、男性の方が 8.6 ポイント高かった。

なお、立候補をしたが当選しなかった人におけるハラスメント詳細については、サンプル僅少のため、分析は省略する。

図 4-2-27 有権者、支援者、他の候補者等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる議会又は選挙管理委員会での取組（SA）：基本集計結果



女性では「候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査」（53.7%）と回答した割合が最も高く、次いで「ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備」（48.8%）、「ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備」（43.9%）であった。

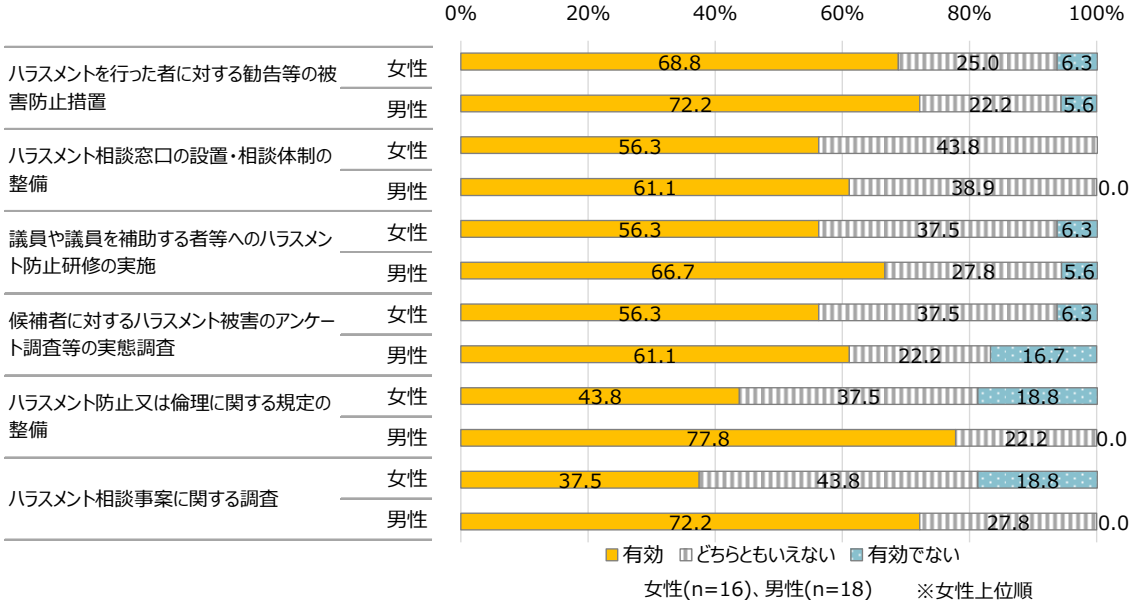
表 4-2-28 有権者、支援者、他の候補者等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる議会又は選挙管理委員会での取組（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=41)	男性 (n=57)	性差ポイント (女性ー男性)
1	**候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査**	**53.7 (1位)**	**42.1 (3位)**	**+11.6**
2	ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備	48.8 (2位)	56.1 (1位)	▲7.3
2	議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施	36.6 (4位)	43.9 (2位)	▲7.3
4	ハラスメント相談事案に関する調査	36.6 (4位)	42.1 (3位)	▲5.5
5	ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置	34.1 (6位)	38.6 (6位)	▲4.5
6	ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備	43.9 (3位)	42.1 (3位)	+1.8

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査」であり、女性の方が 11.6 ポイント高かった。

図 4-2-29 有権者、支援者、他の候補者等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる政党・会派での取組（SA）：基本集計結果



女性では「ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置」（68.8%）と回答した割合が最も高かったが、男性では「ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備」（77.8%）と回答した割合が最も高かった。

ただし、サンプル僅少のため、結果の読み取りに留意が必要である。

表 4-2-30 有権者、支援者、他の候補者等からのハラスメントをなくすために、有効と思われる政党・会派での取組（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=16)	男性 (n=18)	性差ポイント (女性ー男性)
1	**ハラスメント相談事案に関する調査**	**37.5 (6位)**	**72.2 (2位)**	**▲34.7**
2	**ハラスメント防止又は倫理に関する規定の整備**	**43.8 (5位)**	**77.8 (1位)**	**▲34.0**
3	**議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施**	**56.3 (2位)**	**66.7 (4位)**	**▲10.4**
4	候補者に対するハラスメント被害のアンケート調査等の実態調査	56.3 (2位)	61.1 (5位)	▲4.8
4	ハラスメント相談窓口の設置・相談体制の整備	56.3 (2位)	61.1 (5位)	▲4.8
6	ハラスメントを行った者に対する勧告等の被害防止措置	68.8 (1位)	72.2 (2位)	▲3.4

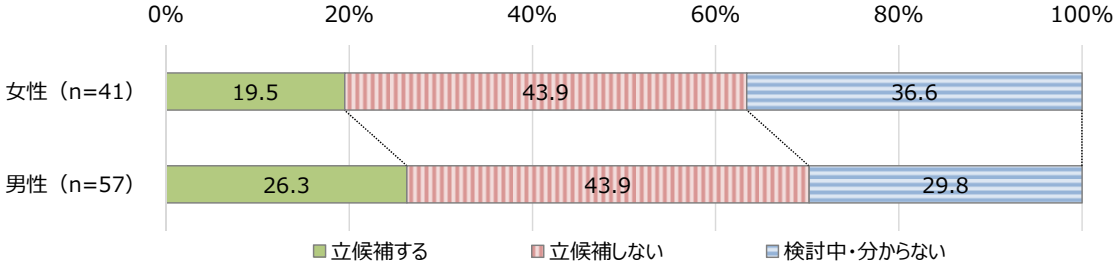
※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったのは「ハラスメント相談事案に関する調査」であり、男性の方が 34.7 ポイント高く、次いで「ハラスメント防止又は倫理に関する規定

の整備」、「議員や議員を補助する者等へのハラスメント防止研修の実施」であり、それぞれ、男性の方が 34.0 ポイント、10.4 ポイント高かった。

ただし、サンプル僅少のため、結果の読み取りに留意が必要である。

図 4-2-31 今後の国政選挙又は地方選挙の立候補予定（SA）：基本集計結果



男女ともに「立候補しない」（女性 43.9%、男性 43.9%）と回答した割合が最も高く、次いで「検討中・分からない」（女性 36.6%、男性 29.8%）であった。

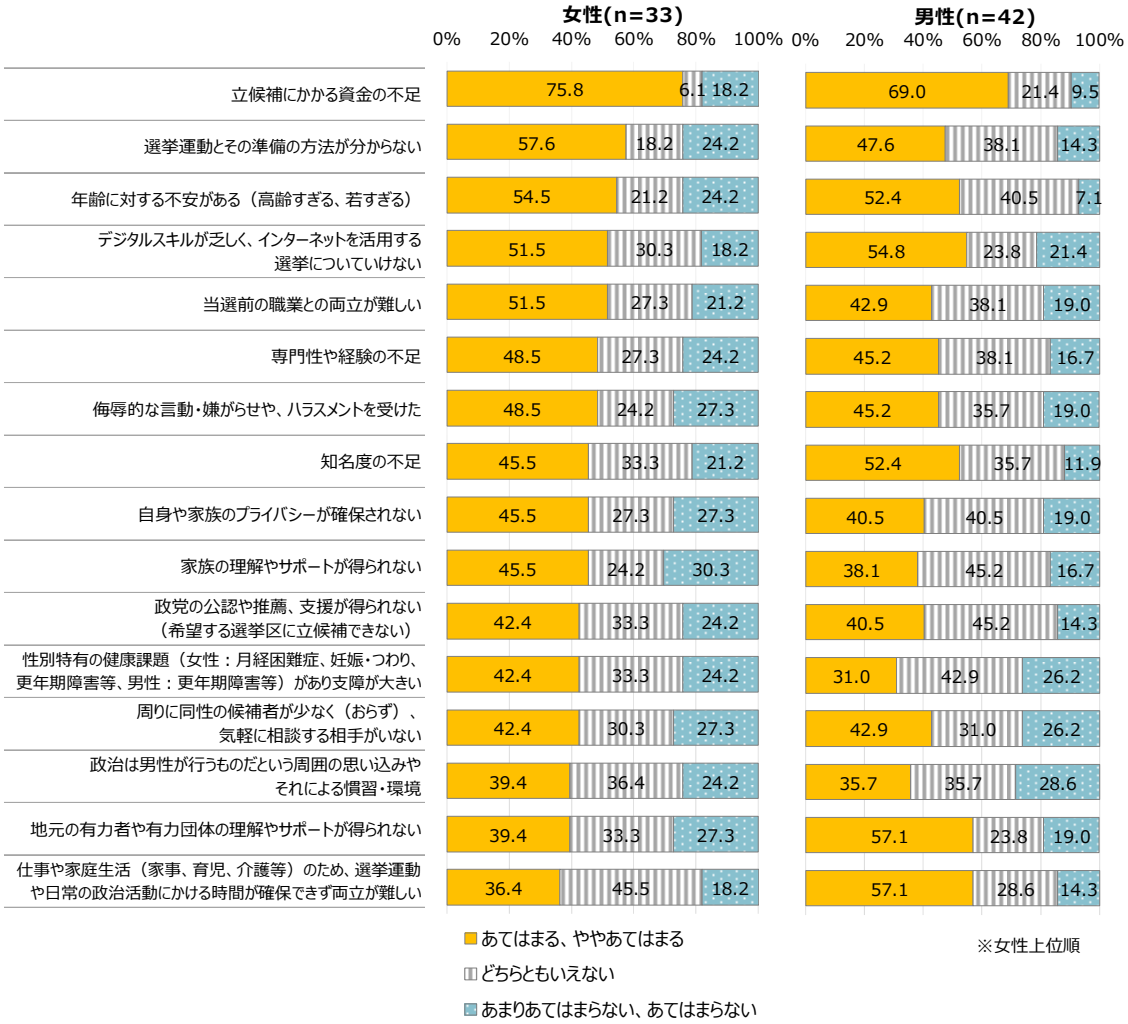
表 4-2-32 今後の国政選挙又は地方選挙の立候補予定（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=41)	男性 (n=57)	性差ポイント (女性ー男性)
1	検討中・分からない	36.6 (2位)	29.8 (2位)	+6.8
1	立候補する	19.5 (3位)	26.3 (3位)	▲6.8
3	立候補しない	43.9 (1位)	43.9 (1位)	0.0

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「検討中・分からない」であり、女性の方が 6.8 ポイント高く、「立候補する」では男性の方が 6.8 ポイント高かった。

図 4-2-33 「立候補しない」又は「検討中・分からない」の理由（SA）：基本集計結果



今後の立候補予定について、「立候補しない」又は「検討中・分からない」と回答した人に対し、その理由を尋ねたところ、男女ともに「立候補にかかる資金の不足」（女性 75.8%、男性 69.0%）と回答した割合が最も高く、次いで女性では「選挙運動とその準備の方法が分からない」（57.6%）、「年齢に対する不安がある（高齢すぎる、若すぎる）」（54.5%）、「デジタルスキルが乏しく、インターネットを活用する選挙についていけない」（51.5%）、「当選前の職業との両立が難しい」（51.5%）であった。

表 4-2-34 「立候補しない」又は「検討中・分からない」の理由（SA）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=33)	男性 (n=42)	性差ポイント (女性ー男性)
1	**仕事や家庭生活(家事、育児、介護等)のため、選挙運動や日常の政治活動にかける時間が確保できず両立が難しい**	**36.4 (16位)**	**57.1 (2位)**	**▲20.7**
2	**地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない**	**39.4 (14位)**	**57.1 (2位)**	**▲17.7**
3	**性別特有の健康課題(女性：月経困難症、妊娠・つわり、更年期障害等、男性：更年期障害等）があり支障が大きい**	**42.4 (11位)**	**31.0 (16位)**	**+11.4**
4	**選挙運動とその準備の方法が分からない**	**57.6 (2位)**	**47.6 (7位)**	**+10.0**
5	当選前の職業との両立が難しい	51.5 (4位)	42.9 (10位)	+8.6
6	家族の理解やサポートが得られない	45.5 (8位)	38.1 (14位)	+7.4
7	知名度の不足	45.5 (8位)	52.4 (5位)	▲6.9
8	立候補にかかる資金の不足	75.8 (1位)	69.0 (1位)	+6.8
9	自身や家族のプライバシーが確保されない	45.5 (8位)	40.5 (12位)	+5.0
10	政治は男性が行うものだという周囲の思い込みやそれによる慣習・環境	39.4 (14位)	35.7 (15位)	+3.7
11	デジタルスキルが乏しく、インターネットを活用する選挙についていけない	51.5 (4位)	54.8 (4位)	▲3.3
11	専門性や経験の不足	48.5 (6位)	45.2 (8位)	+3.3
11	侮辱的な言動・嫌がらせや、ハラスメントを受けた	48.5 (6位)	45.2 (8位)	+3.3
14	年齢に対する不安がある（高齢すぎる、若すぎる）	54.5 (3位)	52.4 (5位)	+2.1
15	政党の公認や推薦、支援が得られない（希望する選挙区に立候補できない）	42.4 (11位)	40.5 (12位)	+1.9
16	周りに同性の候補者が少なく（おらず）、気軽に相談する相手がいない	42.4 (11位)	42.9 (10位)	▲0.5

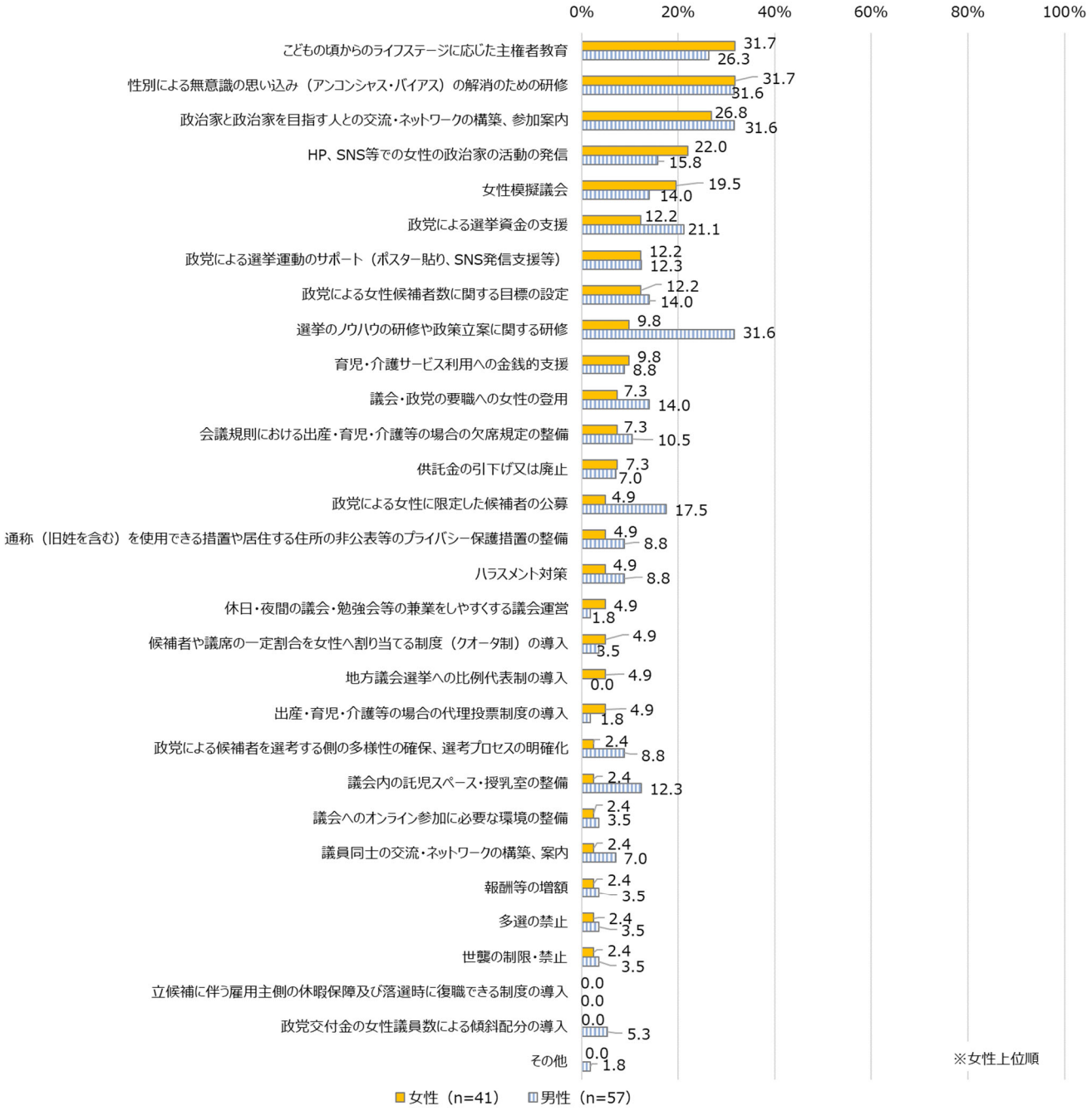
※男女の回答割合は「あてはまる」及び「ややあてはまる」の合計
※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「仕事や家庭生活（家事、育児、介護等）のため、選挙運動や日常の政治活動にかける時間が確保できず両立が難しい」であり、男性の方が 20.7 ポイント高く、次いで「地元の有力者や有力団体の理解やサポートが得られない」も男性の方が 17.7 ポイント高かった。「性別特有の健康課題（女性：月経困難症、妊娠・つわり、更年期障害等、男性：更年期障害等）があり支障が大きい」、「選挙運動と

その準備の方法が分からない」では、女性の方がそれぞれ 11.4 ポイント、10.0 ポイント高かった。

Ⅲ. 女性の政治参画について

図 4-2-35 女性の政治家を増やすために有効だと思う取組（最大５つ）：基本集計結果



女性では「こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育」（31.7%）及び「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消のための研修」（31.7%）と回答した割合が最も高く、次いで「政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワークの構築、参加案内」（26.8%）、「HP、SNS 等での女性の政治家の活動発信」（22.0%）、「女性模擬議会」（19.5%）であった。

表 4-2-36 女性の政治家を増やすために有効だと思う取組（最大５つ）：性差ポイント順位表

順位 (性差ポイント順)	調査項目	女性 (n=41)	男性 (n=57)	性差ポイント (女性－男性)
1	**選挙のノウハウの研修や政策立案に関する研修**	**9.8 (9位)**	**31.6 (1位)**	**▲21.8**
2	**政党による女性に限定した候補者の公募**	**4.9 (14位)**	**17.5 (6位)**	**▲12.6**
3	議会内の託児スペース・授乳室の整備	2.4 (21位)	12.3 (11位)	▲9.9
4	政党による選挙資金の支援	12.2 (6位)	21.1 (5位)	▲8.9
5	議会・政党の要職への女性の登用	7.3 (11位)	14.0 (8位)	▲6.7
6	政党による候補者を選考する側の多様性の確保、選考プロセスの明確化	2.4 (21位)	8.8 (14位)	▲6.4
7	HP、SNS等での女性の政治家の活動の発信	22.0 (4位)	15.8 (7位)	+6.2
8	女性模擬議会	19.5 (5位)	14.0 (8位)	+5.5
9	こどもの頃からのライフステージに応じた主権者教育	31.7 (1位)	26.3 (4位)	+5.4
10	政党交付金の女性議員数による傾斜配分の導入	0.0 (28位)	5.3 (20位)	▲5.3
11	地方議会選挙への比例代表制の導入	4.9 (14位)	0.0 (28位)	+4.9
12	政治家と政治家を目指す人との交流・ネットワークの構築、参加案内	26.8 (3位)	31.6 (1位)	▲4.8
13	議員同士の交流・ネットワークの構築、案内	2.4 (21位)	7.0 (18位)	▲4.6
14	通称（旧姓を含む）を使用できる措置や居住する住所の非公表等のプライバシー保護措置の整備	4.9 (14位)	8.8 (14位)	▲3.9
14	ハラスメント対策	4.9 (14位)	8.8 (14位)	▲3.9
16	会議規則における出産・育児・介護等の場合の欠席規定の整備	7.3 (11位)	10.5 (13位)	▲3.2
17	休日・夜間の議会・勉強会等の兼業をしやすくする議会運営	4.9 (14位)	1.8 (26位)	+3.1
17	出産・育児・介護等の場合の代理投票制度の導入	4.9 (14位)	1.8 (26位)	+3.1
19	政党による女性候補者数に関する目標の設定	12.2 (6位)	14.0 (8位)	▲1.8
20	候補者や議席の一定割合を女性へ割り当てる制度（クオータ制）の導入	4.9 (14位)	3.5 (21位)	+1.4
21	議会へのオンライン参加に必要な環境の整備	2.4 (21位)	3.5 (21位)	▲1.1
21	報酬等の増額	2.4 (21位)	3.5 (21位)	▲1.1
21	多選の禁止	2.4 (21位)	3.5 (21位)	▲1.1
21	世襲の制限・禁止	2.4 (21位)	3.5 (21位)	▲1.1
25	育児・介護サービス利用への金銭的支援	9.8 (9位)	8.8 (14位)	+1.0
26	供託金の引下げ又は廃止	7.3 (11位)	7.0 (18位)	+0.3
27	性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消のための研修	31.7 (1位)	31.6 (1位)	+0.1
27	政党による選挙運動のサポート（ポスター貼り、SNS発信支援等）	12.2 (6位)	12.3 (11位)	▲0.1
29	立候補に伴う雇用主側の休暇保障及び落選時に復職できる制度の導入	0.0 (28位)	0.0 (28位)	0.0

※性差ポイント＋10ポイント以上及び▲10ポイント以上を太字

女性と男性のポイント差が最も大きかったものは「選挙ノウハウの研修や政策立案に関する研修」で、男性の方が 21.8 ポイント高く、次いで「政党による女性に限定した候補者の公募」であり、男性の方が 12.6 ポイント高かった。